

ホームページへの掲載	
3月3日	掲載予定

岐阜県立各務原西高等学校

学校長 山田 英貴

学校住所 各務原市那加東垂町 24-1 電話 058-371-0123

1 会議の名称 令和元年度 学校評議員会（第2回） 兼 学校関係者評価委員会

2 会議の構成 委 員 味岡羊二郎 十六銀行 各務原支店長
堀部 伸雄 各務原中央ロータリークラブ会長
岩田 孝志 地域代表
道藤美智代 本校元 P T A 副会長
黒田 晴代 本校第 1 4 回卒業生

後藤 雅哉 本校 P T A 会長

学 校 山田 英貴 校長
錦見 喜朗 教頭
尾関 英明 事務長
舘 弘士 教務主任
向井 好美 生徒指導主事
長谷川 博 進路指導主事
高谷 日和 特別活動部長
太田 英之 教務副主任（記録）

3 会議の目的 今年度の学校運営について、住民や保護者に情報提供すると共に、幅広く意見や要望を聞き、地域社会からの支援・協力を得て、来年度に向けての提言とする。

4 会議の開催 令和2年2月7日（金） 14:30～15:50 各務原西高等学校 校長室
評議員6名と学校職員8名が出席

5 会議の概要

(1) 校長挨拶

岐阜県教育振興基本計画（第三次教育ビジョン）に沿って教育現場の改革が進んでいる。ICTの活用については、本校でもプロジェクターや実物投影機等を利用し、工夫した展開の授業を行っている。ふるさと教育については、生徒に故郷を軸にして将来を考えさせる取組を行っている。ご意見いただけるとありがたい。

(2) 授業見学

(3) 取組の成果と課題（自己評価）

ア 第1回学校評議員会における学校評議員の意見に対する対応状況について（教頭より）

- ・地域や中学生への情報発信については、学校HPに「各西 today」等を掲載するだけでなく、生徒の活躍する姿が情報発信になると考え、今年度より高校見学会や全校集会などの司会や運営を生徒に任せ、自ら考え、行動するような場面を多く設けている。
- ・LGBTなど多様性への配慮については、アンケート実施し、生徒の意見を聞きながら進めている。

イ 教務部（教務主任より）

- ・知識重視から思考力や判断力を育成する授業への改革を行っている。プロジェクター等の整備が

進み、それを活用した授業を推進することができた。

- ・今年度のふるさと学習については、1年生の活動時間が確保できなかった。来年度は、1年次より「総合的な探究の時間」を使い、計画的に学習を進めたい。
- ・学校評価アンケート結果から、教育方針や指導目標があまり伝わっていないようなので、知ってもらおう工夫することが課題である。育成したい生徒像を明確にし、生徒や保護者と共有できるように、校訓に基づいて、社会との関わりに必要な6つの重点を「各西へキサゴン（仮称）」とした。

ウ 生徒指導部（生徒指導主事より）

- ・倫理観と規範意識を身に付けること、安全な学校生活が送れることを目標として取り組んできた。生徒自らがこういった意識を持てるように、生徒会を通じてはたらきかけてきた。
- ・遅刻指導について、今年度は成果が上がった。3年生がよい見本となってくれた。
- ・生徒対象アンケートの多くの項目で評価が向上した。保護者アンケートでは、「わからない」の回答の割合が多く、PR不足が課題である。
- ・校則の見直しについては、生徒にアンケートを取り、意見を吸い上げた。制服を選択しやすいように名称の変更（男子、女子→Aタイプ、Bタイプ）を行った。防寒対策としてのスラックス着用については検討中である。
- ・いじめ等の対応のため、職員会議ごとに生徒情報を共有し、個別対応も丁寧に行った。
- ・今後の課題として指導上のルール細かい部分について、教員間の共通理解を図っていくことがあげられる。

エ 進路指導部（進路指導主事より）

- ・進路意識向上のため、大学等のオープンキャンパスや企業見学への参加を促し、効果をあげた。また、本校は看護師志望者が多く、病院での看護体験に多くの生徒が参加した。職員室前の掲示板に、各大学の特別講座等の案内を掲示する等、生徒への情報提供に努めた。
- ・進路実現に向けて多様な補習講座を計画し、多くの生徒が利用した。また、教員向けに実施した小論文研修は、推薦入試の指導に役立った。
- ・大学入試制度の変更に伴い、1年次からの計画的な指導と個々の教員が持つスキルの共有や継承が課題である。

オ 特別活動部（特別活動部長より）

- ・生徒が自主性をもって活動できるように取り組み、成果を上げることができた。具体的には、生徒会が中心となった青桜祭（文化祭、体育祭）の改革、生徒による球技大会や統一LHRの企画運営等があげられる。
- ・部活動では活動時間の短縮に取り組んだ。生徒は、限られた時間、設備の中で工夫しながら頑張った。活動時間の短縮について、生徒アンケートでは、やや不満の声もあったが、保護者アンケートでは、概ね受け入れられた様だった。学習時間や家庭で過ごす時間の確保につながるためだと思われる。
- ・ボランティア活動については、アンケートでは、概ね好評価であった。学校HP等での広報活動の成果でもあるが、インターアクト部に多くの新生が入り、活発に活動したことが認知されたことも大きい。

カ 地域課題探究型学習推進事業について（教頭より）

- ・今年度は、1、2年生対象に実施した。1年生は「地域を知ろう」を目標に、LHRや現代社会等の時間を使い、各務原市長の講話を受けての課題学習、企業フェス見学、県内施設見学等を行った。2年生は、大学教授による講話「地域課題探究型学習とは」を聴いた後、各務原市役所職員の方から市のテーマ別地域課題の説明を受け、探究活動に取り組んだ。
- ・来年度は、1年次から十分な時間を確保できるよう計画している。

(4) 評議員及び評価委員からのご提言、ご意見

(5) 会議のまとめ

テーマ 授業見学及び自己評価を踏まえての学校への提言、意見、要望等

意見1 自己評価が高いのは素晴らしい。見学した授業では、生徒がアクティブに活動し、先生と生徒と一緒に授業を作っている感じがよかった。人数の少ない剣道部の健闘に感激した。

意見 2 電車通学の生徒を見ると、身だしなみやマナーなど爽やかな生徒が多く、好印象を受ける。見学した授業では、昨年度よりもさらにICTの利用、生徒の積極的な取組が見られてよかった。

製造業を中心に景気は下降しつつあり、高卒を採用しようという動きがある。学校側から「育成したい生徒像」が示されたが、企業側から見た採用したい生徒像は、自ら考え、行動力があり、SDG'sや環境への意識が高い生徒である。ボランティア活動が盛んなので、西高独自の取組を模索するとよいのではないか。

ルールにとらわれ過ぎると、生徒の意欲や活動を制限してしまう恐れがある。来年度の海外研修について、生徒たちのためになるよう多面的な判断をしてほしい。

意見 3 気持ちよく授業を参観させてもらった。先生が生徒の意識を高めようとしているのがよく伝わった。双方向の授業なので生徒の興味も湧く。ICT機器が有効利用されていてよかった。

ボランティア活動が中心のインターアクト部に多くの生徒が入部する意識の高さは頼もしい。保護者の多くは、西高の進路指導を全面的に信頼している。

意見 4 アンケートの結果より、単位制高校の特徴や魅力が、生徒や保護者に伝わってないと感じた。人気の高い西高だからこそ、単位制のよいところをしっかりと伝えられるとよい。

学校側の説明にあった「育成したい生徒像」は、様々な体験を積み重ねることで育つと思う。遅刻者が減ったのは素晴らしいことであり、より育成したい生徒像の理想に向かってほしい。

意見 5 自分達が学生の頃の授業風景と異なり、プロジェクターやホワイトボードが多用されていて驚いた。また、先生と生徒が温かい感じで授業が進められていてよかった。

意見 6 アンケートの結果の否定的な意見が多いものに注意してほしい。特に、単位制高校の説明や良い点が伝わっていないことや、体罰についての意見が0でないことは考慮していただきたい。子供を通しての進路情報が、なかなか保護者にまで伝わらない。学校に、親が相談できる窓口があるとよいのではないか。

意見 7 学校の周りの桜の木が老化などのため切られてしまい、悲しい。若木を植えて世代交代をしてもらいたい。

中学生の高校見学のアンケートを見ると、「西高は勉強ばかり？」の様に現実と異なるイメージを持たれている。中学生へのアナウンス不足を感じる。高校見学会で、西高の生徒が説明をしたのは素晴らしい取組である。

意見 8 安全面等から桜の木を切らざるを得ないだろうが、ぜひとも、新しい苗木を植樹していただきたい。

6 会議のまとめ

評議員の方々には日頃から本校に関心を持っていただき、具体的な質問や意見、感想が多く出された。学校に対する好意的な思いが多く語られ、今までの様々な取組について評価をしていただいた。さらに地元住民や保護者としての立場から、地域の中での学校の在り方や本校の目指す方向について示唆をいただいた。生徒の姿や学校の取組を校内外でより高く評価していただけるよう、今回の貴重なご意見を参考に、今後も改善に向けて粘り強く努力し、1人でも多くの生徒がこの学校に入ってよかったと言えるように尽力していきたい。